

Ⅱ 滋賀県教職員互助会会員の超過勤務等の状況 ～教職員超過勤務縮減プロジェクト アンケート2016結果～

1. アンケートの目的

超過勤務縮減対策を検討するにあたり、勤務状況等について調査を行う。

2. 調査対象者

平成28年4月1日現在 正会員 11,416人

正会員の中から無作為抽出した者 1,144名 内回答者 737名（回答率:64.4%）

回答依頼者内訳 (人)

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	計
男	214	170	143	42	569
女	316	124	74	61	575
30歳未満	125	58	26	17	226
30歳代	129	57	28	25	239
40歳代	98	65	52	31	246
50歳代	167	110	97	28	402
60歳代	11	4	14	2	31
合計	530	294	217	103	1144

回答者 (人)

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	校種不明	計	回答率
男	142	118	89	23	3	375	65.9
女	206	80	45	29	2	362	63.0
30歳未満	74	33	13	8	1	129	57.1
30歳代	66	36	15	8	0	125	52.3
40歳代	66	42	31	17	0	156	63.4
50歳代	134	84	62	17	3	300	74.6
60歳代	8	3	13	2	1	27	87.1
合計	348	198	134	52	5	737	
回答率	65.7	67.3	61.8	50.5			

回答者 (人)

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	校種不明	規模計
100以下	52	8	2	16	0	78
100～200	44	17	5	10	0	76
201～300	50	21	2	7	2	82
301～400	38	46	11	17	0	112
401～600	80	55	20	1	0	156
601～800	36	24	38	0	1	99
801～1000	26	20	37	0	2	85
1001以上	18	7	18	0	0	43
規模不明	4		1	1		6
校種計	348	198	134	52	5	737

回答者 (人)

	1 校長	2 副校長	3 教頭	4 主幹教諭	5 教諭	6 養護教諭	7 臨時講師	8 栄養教諭・栄養職員	9 実習・実習助手	10 司書	11 現業職員	12 寄宿舎指導員	13 事務職員	14 その他	職種不明	計
小学校	22	0	24	1	248	19	0	5	0	0	0	0	29	0	0	348
中学校	13	0	12	3	144	10	0	2	0	0	1	0	13	0	0	198
高等学校	5	1	6	1	101	2	0	0	10	2	6	0	0	0	0	134
特別支援学校	2	3	1	0	40	1	0	2	1	0	1	1	0	0	0	52
校種不明	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
計	43	4	44	5	535	32	0	9	11	2	8	1	42	0	1	737

3. 集計結果の留意点

1. 調査対象者については、正会員総計に対する男女別、年齢別、校種別、学校規模別、職種別割合に応じて無作為抽出している。
2. 割合等の集計は、各問に対し、全員の回答が得られていないため、回答者数に応じて表している。
3. 割合の計算にあつては、すべて四捨五入しており、割合の合計が100%にならない場合がある。
4. グラフ内の数値は%表示である。

4. アンケート結果の総括

(1) 勤務の実態について

- ① 超過勤務については、週10時間以上と答えた割合が70%を占める。
週20時間以上は24%あった。中学校では、週20時間以上が40%を占めている。

超過勤務の要因については、「教材研究、教材作成、授業の準備」(17%)や「部活動の技術的な指導等」(8%)が優位にあり、「児童・生徒の問題行動への対応」(6%)についても優位に上げられている。

小学校では「教材研究、教材作成、授業の準備」、「宿題、提出物の点検」、「週案・指導案の作成」、中学校、高等学校では、「部活動の技術的な指導等」、「教材研究、教材作成、授業の準備」が多い。また中学校では、「児童・生徒の問題行動への対応」についても多く上げられている。

持ち帰り業務については、週10時間未満と答えた割合が89%で、そのうち週5時間未満は66%であった。

- ② 休憩時間の取得については、小学校、中学校ではほとんど取れていない現状にある。
- ③ 休暇の取得については、年休は6日までが43%、7日～12日が39%となっている。

また、夏季特休については8割以上(5日～6日)取得している者は全体の86%であった。

- ④ 負担感を感じる業務については、中学校、高等学校においては、「部活動の技術的な指導等」が多く、小学校、中学校においては、「研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成」についても多く上げられている。

(2) 部活動について

- ① 部活動については、中学校、高等学校ともに回答者の80%以上が顧問をしている。
- ② 休日・祝日の部活動については、中学校、高等学校ともに20%あまりが実施していて、月曜日から金曜日におけるノ一部活デーは、中学校では42%が、高等学校においても34%が「ない」と答えている。
- ③ 朝練については、高等学校では11%程度であるが、中学校では60%近くが「すべての部で」、「ほとんどの部で」と答えている。
- ④ こうした状況で、体育部の顧問をしている回答者の内、50%が負担を感じており、文化部でも21%が負担を感じていると答えている。

(3) 超過勤務縮減・労働安全衛生の取り組みについて

超過勤務縮減の取り組みについては、管理職はほとんどが、毎年4月に「超過勤務の縮減についての通知」や「勤務時間の割り振り変更」についてよく知っているというが、その他の職員は、半数あまりが「あまり知らない」、「全く知らない」と答えている。

また、労働安全衛生の取り組みについても同様の状況が伺えるが、特別支援学校ではほとんどが「よく知っている」「少し知っている」と答えている。

(4) 業務改善について

職場におけるコミュニケーション・チームワークについては、「取れている」の回答が過半数を超えているが、業務配分の調整については、70%強が調整されているとは「思わない」、「どちらともいえない」と答えている。

校種の効率化については、パソコンやICTの活用については、50%が活用が進んでいると「思う」と答え、会議の合理化などについては、32%が取り組みがなされていると「思う」と答えている。一方「どちらともいえない」がパソコンICTの活用については、32%、会議の合理化などについては40%となっている。

ボランティア等の活動については、積極的に活用していると答える回答が50%あるものの、超過勤務の縮減効果については、67%が効果があると「思わない」と答えている。

さらに専門家の支援については、活用を効果的に行っていると「思う」との回答が小学校で63%、中学校で81%、高等学校56%の割合で答えているが、特別支援学校では19%とその割合は低い。

5. 各設問の概要

⑥超過勤務の状況

⑥ 職場で、あなたは平均して、一週間に何時間の超過勤務をしていますか。(土、日、休日出勤を含みます。持ち帰り業務を除きます。)次の中から1つ選んでください。

1 0～5 時間未満 2 5～10 時間未満 3 10～15 時間未満
 4 15～20 時間未満 5 20 時間以上

全体では、20時間以上と答えた割合が24%を占めており、10～15時間未満と答えた人についても24%を占めている。
 校種別では、小学校は10～20時間が、中学校、高等学校では15時間以上が多く、特別支援学校では5～15時間が多い。
 男女別では、男性の方が長時間を占める割合が多いが、女性は、5～15時間の超過勤務をおこなっている割合が多い。
 年代別では60歳代を除き各年代ともに10時間以上の超過勤務が多く、学校規模別にみても同様の状況である。
 職種別では、教諭の大半が10時間以上の超過勤務となっているが、教頭職にあつては、62.8%が20時間以上の超過勤務となっている。

* 回答件数(件)

区分	計	性別	
		男	女
0～5時間未満	98	44	54
5～10時間未満	117	38	79
10～15時間未満	173	76	97
15～20時間未満	158	92	66
20時間以上	174	119	55
計	720	369	351

校種	性別			
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
0～5時間未満	47	19	27	5
5～10時間未満	57	24	21	14
10～15時間未満	107	30	19	15
15～20時間未満	73	44	34	7
20時間以上	56	77	30	9
計	340	194	131	50

年代	性別				
	30未満	30代	40代	50代	60代
0～5時間未満	14	19	23	35	7
5～10時間未満	18	19	22	53	5
10～15時間未満	22	23	41	79	8
15～20時間未満	32	27	31	63	5
20時間以上	41	34	35	63	1
計	127	122	152	293	26

学校規模別

区分	性別					計
	0～5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20時間以上	
100人以下	21	12	21	13	9	76
101～200人	13	13	19	16	13	74
201～300人	8	13	15	15	29	80
301～400人	13	20	27	30	20	110
401～600人	16	24	45	34	33	152
601～800人	10	17	20	23	26	96
801～1000人	9	11	16	16	31	83
1001以上	6	6	9	11	10	42
計	96	116	172	158	171	

* 回答割合(%)

区分	計
0～5時間未満	13.6
5～10時間未満	16.3
10～15時間未満	24.0
15～20時間未満	21.9
20時間以上	24.2
計	100

性別	
男	女
11.9	15.4
10.3	22.5
20.6	27.6
24.9	18.8
32.2	15.7
100	100

校種			
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
13.8	9.8	20.6	10.0
16.8	12.4	16.0	28.0
31.5	15.5	14.5	30.0
21.5	22.7	26.0	14.0
16.5	39.7	22.9	18.0
100	100	100	100

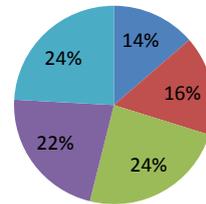
年代				
30未満	30代	40代	50代	60代
11.0	15.6	15.1	11.9	26.9
14.2	15.6	14.5	18.1	19.2
17.3	18.9	27.0	27.0	30.8
25.2	22.1	20.4	21.5	19.2
32.3	27.9	23.0	21.5	3.8
100	100	100	100	100

学校規模別

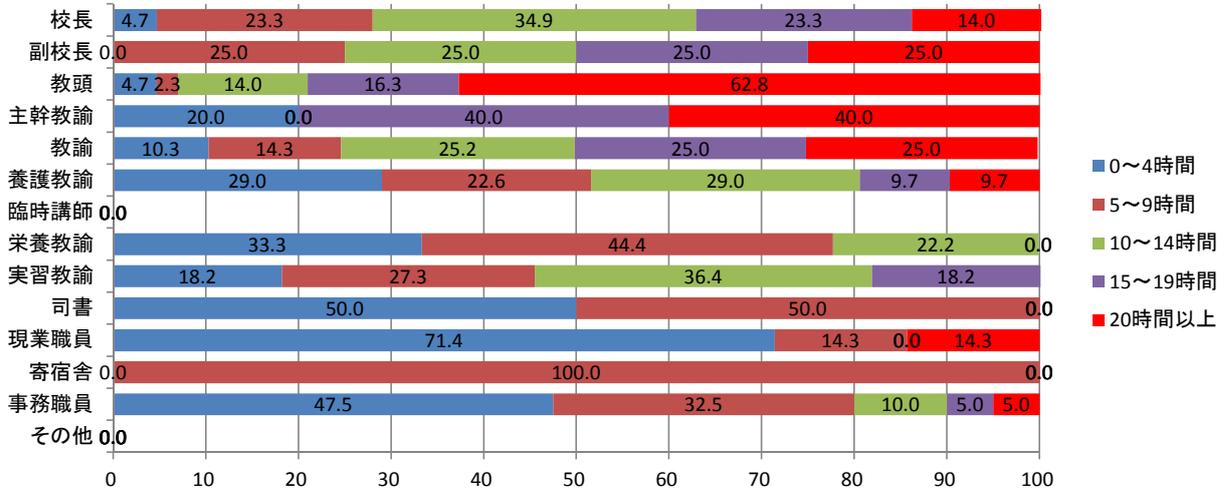
区分	0～5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20時間以上	計
100人以下	27.6	15.8	27.6	17.1	11.8	100.0
101～200人	17.6	17.6	25.7	21.6	17.6	100.0
201～300人	10.0	16.3	18.8	18.8	36.3	100.0
301～400人	11.8	18.2	24.5	27.3	18.2	100.0
401～600人	10.5	15.8	29.6	22.4	21.7	100.0
601～800人	10.4	17.7	20.8	24.0	27.1	100.0
801～1000人	10.8	13.3	19.3	19.3	37.3	100.0
1001以上	14.3	14.3	21.4	26.2	23.8	100.0

区分	1 校長	2 副校長	3 教頭	4 主幹教諭	5 教諭	6 養護教諭	7 臨時講師	8 栄養教諭・栄養職員	9 実習教諭・実習助手	10 司書	11 現業職員	12 寄宿舎指導員	13 事務職員	14 その他
0～5時間未満	2	0	2	1	54	9	0	3	2	1	5	0	19	0
5～10時間未満	10	1	1	0	75	7	0	4	3	1	1	1	13	0
10～15時間未満	15	1	6	0	132	9	0	2	4	0	0	0	4	0
15～20時間未満	10	1	7	2	131	3	0	0	2	0	0	0	2	0
20時間以上	6	1	27	2	131	3	0	0	0	0	1	0	2	0

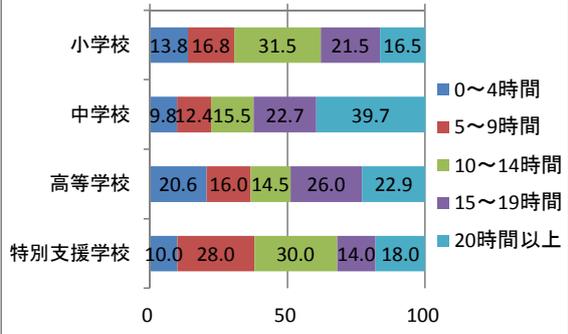
全体の回答割合の状況



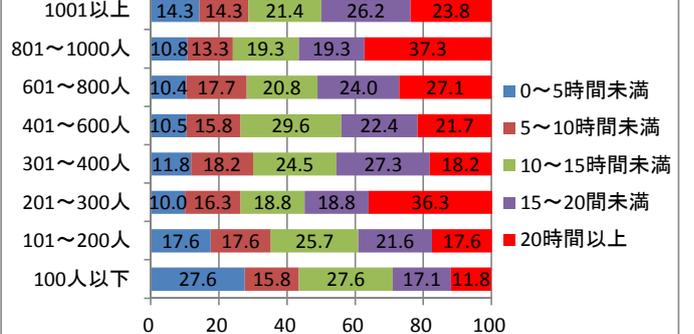
職種別回答の割合状況



校種別回答割合の状況



学校規模別回答割合の状況



⑦持ち帰り業務の状況

⑦ 自宅で、あなたは平均して、一週間に何時間の持ち帰り業務を行っていますか。(土、日、休日を含みます。)次の中から1つ選んでください。
 1 □ 0～5 時間未満 2 □ 5～10 時間未満 3 □ 10～15 時間未満
 4 □ 15～20 時間未満 5 □ 20 時間以上

大多数が5時間未満の持ち帰り業務となっているが、超過勤務を20時間以上おこなった上に20時間以上の持ち帰り業務をおこなっている者もみうけられる。
 性別、校種等属性によるところの特性は、特にみうけられない。

* 回答件数(件)

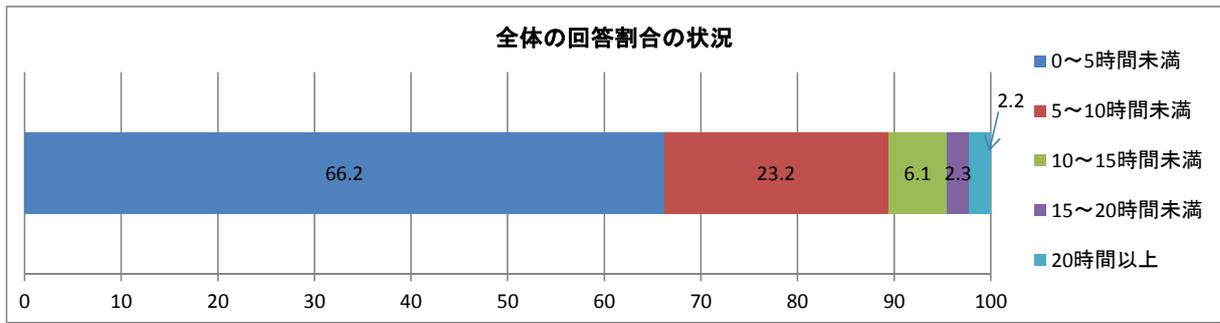
区分	計	性別		校種				年代					0～5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20時間以上	計	
		男	女	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	30未満	30代	40代	50代	60代							
0～5時間未満	486	251	235	212	132	102	38	91	77	91	207	20	57	11	5	3	2	78	
5～10時間未満	170	80	90	93	42	25	9	27	33	45	59	6	54	18	3	0	1	76	
10～15時間未満	45	24	21	25	14	4	1	3	6	8	27	1	48	27	4	3	0	82	
15～20時間未満	17	6	11	9	4	2	1	5	4	5	3	0	72	22	6	3	7	110	
20時間以上	16	12	4	7	6	1	2	2	4	6	4	0	98	38	11	4	4	155	
計	734	373	361	346	198	134	51	128	124	155	300	27	68	22	5	2	1	98	
													801～1000人	52	23	8	1	1	85
													1001以上	33	7	3	0	0	43
													計	482	168	45	16	16	

* 回答割合(%)

区分	計	性別		校種				年代					0～5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20時間以上	計	
		男	女	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	30未満	30代	40代	50代	60代							
0～5時間未満	66.2	67.3	65.1	61.3	66.7	76.1	74.5	71.1	62.1	58.7	69.0	74.1	73.1	14.1	6.4	3.8	2.6	100	
5～10時間未満	23.2	21.4	24.9	26.9	21.2	18.7	17.6	21.1	26.6	29.0	19.7	22.2	71.1	23.7	3.9	0.0	1.3	100	
10～15時間未満	6.1	6.4	5.8	7.2	7.1	3.0	2.0	2.3	4.8	5.2	9.0	3.7	58.5	32.9	4.9	3.7	0.0	100	
15～20時間未満	2.3	1.6	3.0	2.6	2.0	1.5	2.0	3.9	3.2	3.2	1.0	0.0	65.5	20.0	5.5	2.7	6.4	100	
20時間以上	2.2	3.2	1.1	2.0	3.0	0.7	3.9	1.6	3.2	3.9	1.3	0.0	63.2	24.5	7.1	2.6	2.6	100	
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	69.4	22.4	5.1	2.0	1.0	100	
													801～1000人	61.2	27.1	9.4	1.2	1.2	100
													1001以上	76.7	16.3	7.0	0.0	0.0	100

区分	1 校長	2 副校長	3 教頭	4 主幹教諭	5 教諭	6 養護教諭	7 臨時講師	8 栄養教諭・栄養職員	9 実習教諭・実習助手	10 司書	11 現業職員	12 寄宿舎指導員	13 事務職員	14 その他
0～5時間未満	32	3	38	5	316	24	0	7	10	2	7	1	41	0
5～10時間未満	8	1	5	0	146	6	0	2	1	0	0	0	1	0
10～15時間未満	2	0	1	0	41	1	0	0	0	0	0	0	0	0
15～20時間未満	1	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20時間以上	0	0	0	0	14	1	0	0	0	0	1	0	0	0

超過勤務状況	持ち帰り残業時間					計
	0～4	5～9	10～14	15～19	20以上	
0～4時間	91	6	0	0	1	98
5～9時間	81	23	9	1	3	117
10～14時間	111	45	9	5	1	171
15～19時間	100	40	8	5	4	157
20時間以上	121	34	14	3	2	174
計	504	148	40	14	11	717



⑧超過勤務の主な要因

⑧ あなたが超過勤務をすることになっている主な要因を、(p19参照)のなかから多い順に3つまで選び該当する番号を記入してください。

(別表中1～71番で該当する内容がなく、72番～74番の「その他」を選んだ方は、別表中該当番号右の業務内容欄にその内容を記入ください。)

(注: 主な要因とは「学期末の成績・統計・評定処理」で時間外に業務をしても、勤務時間中に「給食費の集金、支払、未納者への対応」をしていたために時間外に業務をすることとなった場合には、「給食費の集金、支払、未納者への対応」を選んでください。)

校種・学校規模を問わず「教材研究、教材作成、授業の準備」や「児童・生徒の問題行動への対応」が、また、中学校、高等学校においては「部活動の技術的な指導等」が超過勤務の主な要因となっていると回答している者が多い。

高等学校では、「出欠連絡や保護者からの電話連絡への対応」、支援学校では、「朝の打合せ、学年会議、職員会議、各種委員会等の会議の実施」についてもあげられており、また、小規模の学校では、「校務分掌の作成、各種委員会の企画運営」や「文書の收受・発送、文書処理簿の作成」といった要因もあげられており、比較的規模の大きな学校では、「学期末の成績・統計・評定処理」も要因となっている。

多い回答(上位10項目)

順位	要因項目	回答数	全回答中の割合%	内 容
1	10	345	17.1	教材研究、教材作成、授業(実験・学習)の準備
2	25	153	7.6	部活動の技術的な指導、各種大会(運動部・文化部)への引率等
3	28	113	5.6	児童・生徒の問題行動への対応(時間外での家庭訪問、指導を含む)
4	16	93	4.6	宿題、提出物の点検
5	7	81	4.0	テスト問題の作成、採点
6	9	78	3.9	週案・指導案の作成
7	15	71	3.5	学年・学級通信の作成、掲示物等の作成・掲示
8	47	71	3.5	会議のための事前準備(書類の作成・開催の連絡)、事後処理(議事録、まとめ)
9	8	62	3.1	成績一覧表・通知表の作成、指導要録の作成
10	11	57	2.8	研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成

* 全回答数: 2,013 件

校種別要因項目(上位5項目)

		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
		項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%
校種	小学校	10	17.0	9	6.2	16	6.0	28	5.1	15	4.7
	中学校	25	15.1	10	14.7	28	9.3	7	6.0	15	3.6
	高等学校	25	20.5	10	18.0	7	8.0	16	5.5	18	3.4
	特別支援学校	10	25.4	47	11.3	43	8.5	9	4.2	46	4.2

学校規模別要因項目(上位5項目)

		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
		項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%
学校規模	100以下	10	17.1	9	6.6	8	5.2	47	5.2	55	4.3
	101～200	10	16.4	11	5.8	15	5.3	28	4.3	43	4.3
	201～300	10	17.0	25	5.1	9	5.1	25	5.1	16	4.7
	301～400	10	19.1	28	9.0	25	7.3	43	4.5	47	4.5
	401～600	10	17.2	28	6.9	25	6.4	16	5.9	7	5.0
	601～800	10	14.1	25	10.7	28	5.9	7	5.9	23	3.3
	801～1000	10	16.2	25	14.5	16	6.8	28	5.5	7	4.7
	1000以上	10	21.4	25	15.0	28	6.3	9	4.5	7	4.5

年代別要因項目(上位5項目)

		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
		項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%
年代	30歳未満	10	21.8	16	8.8	25	6.5	9	6.2	15	5.9		
	30歳代	10	23.1	25	8.4	15	6.6	16	6.1	28	6.1		
	40歳代	10	19.2	25	8.1	7	6.4	28	5.7	8	4.3		
	50歳代	10	11.9	25	7.3	28	6.8	47	5.0	7	4.0		
	60歳代	10	13.6	25	10.6	25	4.5	16	4.5	24	4.5	66	4.5

参照

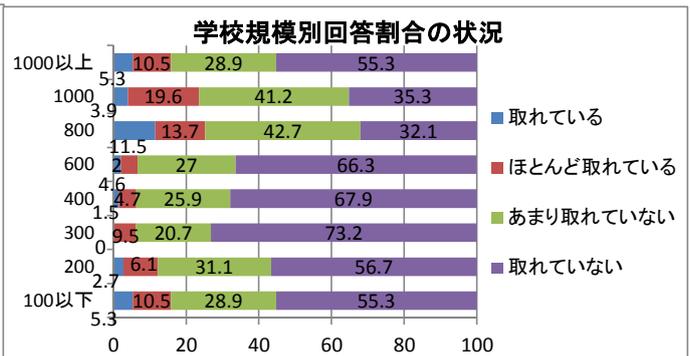
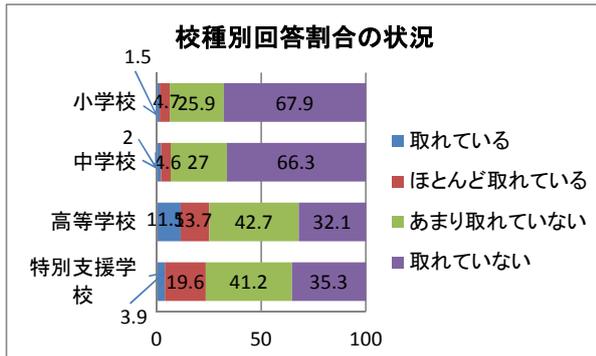
要因項目	内 容
18	出欠連絡や保護者からの電話連絡への対応、保護者への連絡(緊急時、周知)
23	学期末の成績・統計・評定処理
24	部活動の活動計画の作成
43	校務分掌の作成、各種委員会の企画運営
46	朝の打合せ、学年会議、職員会議、各種委員会等の会議の実施
55	文書の收受・発出、文書処理簿等の作成
66	学校徴収金に関する業務(未納者への対応)

⑨ 休憩時間の取得状況

⑨ あなたは休憩時間(45分)を取れていますか。次の中から1つ選んでください。

休憩時間の取得に関しては、「取れていない」「あまり取れていない」が、あわせて89%となっていて、特に小中学校の割合が高い。
 学校規模別では、児童・生徒300人～600人規模の学校が、取れていない割合が高い。

取得している	ほとんど取れている	あまり取れていない	取れていない
26	53	220	424

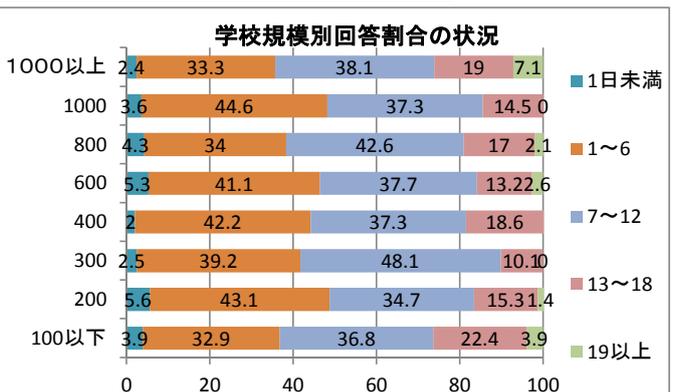
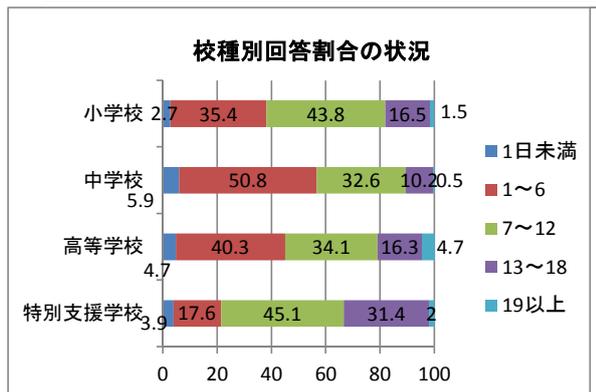


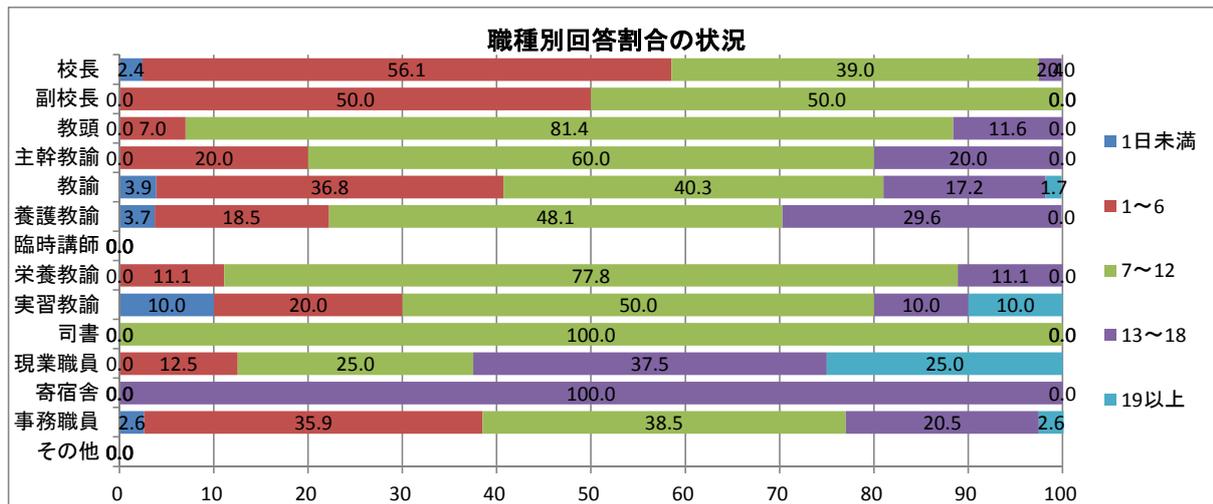
⑩ 年次有給休暇の取得状況

⑩ あなたが昨年1年間(1月～12月)に取得した年次有給休暇(1暦年20日)の日数はどれくらいでしたか。次の中から1つ選んでください。

年次有給休暇の取得では、1日～12日が多数を占めている。
 校種別では、小中学校で、特に1日～12日の取得割合が多く両方で80%台となっている。
 学校規模別では、100人以下の小規模校で比較的高い取得率となっている。
 職種別では、管理職の取得率が低く特に教頭、主幹教諭の取得率が低い。

1日未満	1日～6日	7日～12日	13日～18日	19日以上
29	276	275	112	13





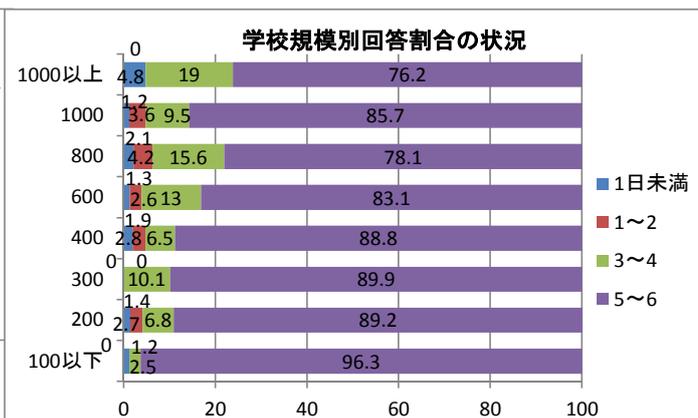
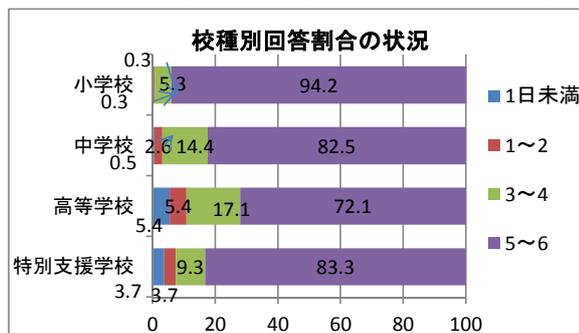
⑪夏季特休の取得状況

⑪ あなたは夏季特休(7月1日～9月30日の間で6日間)はどれくらい取得できていますか。次の中から1つ選んでください。

夏期休暇については、殆どが5日～6日の取得となっている。

(回答件数:件)

1日未満	1日～2日	3日～4日	5日～6日
11	16	73	624



⑫負担感を感じる業務の状況

⑫ あなたが従事する業務の中で、負担感を感じる業務を、別表(p19参照)のなかから負担感の高い順に3つまで選び該当する番号を記入してください。

負担感を感じる業務では、「児童・生徒の問題行動への対応」や「部活動の技術的な指導、各種大会への引率」では超過勤務の主な要因と共通しているが、「研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成」、「保護者・地域からの要望・苦情等への対応」についても回答が多い。

また、「校務分掌の作成、各種委員会の企画運営」、「朝の打合せ、学年会議、職員会議、各種委員会等の会議の実施」についても高等学校や特別支援学校での回答がみられる。30代までは、事前レポートや報告書の作成が上位にあり、40代50代では、保護者対応や調査アンケートの対応が上位にみられる。

多い回答(上位10項目)

順位	項目	回答数	全回答中の割合%	内容
1	28	134	6.7	児童・生徒の問題行動への対応(時間外での家庭訪問、指導を含む)
2	11	132	6.6	研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成
3	52	120	6.0	保護者・地域からの要望・苦情等への対応
4	25	119	5.9	部活動の技術的な指導、各種大会(運動部・文化部)への引率等
5	57	96	4.8	国や教育委員会からの調査やアンケートへの対応
6	10	94	4.7	教材研究、教材作成、授業(実験・学習)の準備
7	47	73	3.6	会議のための事前準備(書類の作成・開催の連絡)、事後処理(議事録、まとめ)
8	8	71	3.5	成績一覧表・通知表の作成、指導要録の作成
9	30	55	2.7	特別な支援が必要となる児童生徒への対応
10	7	54	2.7	テスト問題の作成、採点

* 全回答数: 1,921 件

校種別負担感項目(上位5項目)

		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
		項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%
校種	小学校	11	8.2	28	7.3	52	6.5	57	6.0	8	5.7		
	中学校	25	12.9	28	9.2	11	6.8	7	5.7	52	5.0		
	高等学校	25	15.0	52	5.3	28	4.1	57	4.1	30	3.4	46	3.4
	特別支援学校	52	11.6	10	8.5	47	7.8	43	7.0	11	5.4	46	5.4

学校規模別負担感項目(上位5項目)

		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
		項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%
学校規模	100以下	11	10.7	52	7.1	57	6.6	10	5.1	47	5.1		
	101~200	11	10.7	57	6.1	28	5.6	10	5.1	8	5.1		
	201~300	11	8.3	52	7.8	10	5.7	28	5.7	57	4.8		
	301~400	25	8.2	52	8.2	28	7.5	10	5.8	43	5.1		
	401~600	28	9.3	57	6.5	11	6.5	25	5.5	52	5.5		
	601~800	25	8.3	28	8.3	11	5.6	52	5.6	57	5.6		
	801~1000	25	12.0	52	6.5	7	5.6	10	5.1	28	5.1	18	5.1
	1000以上	10	11.2	28	9.3	11	8.4	7	7.5	25	6.5		

年代別負担感項目(上位5項目)

		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
		項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%	項目	割合%
年代	30歳未満	10	9.9	11	8.4	25	6.0	28	5.1	8	4.5		
	30歳代	11	8.6	28	8.6	8	6.8	25	5.6	52	4.9		
	40歳代	25	7.5	28	7.5	52	5.8	11	5.6	57	5.6		
	50歳代	52	8.3	57	7.0	28	6.9	11	6.6	25	5.5		
	60歳代	25	10.8	72	7.7	25	6.2	52	6.2	43	4.6	65	4.6

参照

要因項目	内 容
18	出欠連絡や保護者からの電話連絡への対応、保護者への連絡(緊急時、周知)
43	校務分掌の作成、各種委員会の企画運営
46	朝の打合せ、学年会議、職員会議、各種委員会等の会議の実施
65	学校徴収金に関する業務(通知・集金・支払・会計処理)
72	献立作成

勤務の実態についての意見

- ・ 教委からの文書依頼や出張が多く、処理が追いつかない。校内で調整するのが大変である。
- ・ 生徒指導上の問題が山積し、その対応に追われている。保護者に連絡は夕方5時、6時以降になり、その後の対応を考えると退勤時刻はさらに遅れてしまう。
- ・ 保護者の要求が多岐にわたり対応に苦慮している。
- ・ 給食をゆっくり食べることができない、トイレに行く時間もない、などあり得ない勤務の日がある。45分の休憩時間は取れません。
- ・ 大規模校なので全体で共通認識を行うための資料作りに時間がかかる。転勤が加速化したことにより「大切にしたいこと」や専門性の担保も難しくなってきた。一つずつ共通理解をしなければならず、時間と力が必要である。
- ・ 年々、業務量も責任も増え、体調が良くなくても休むことができない。年休がとりづらい状況にある。

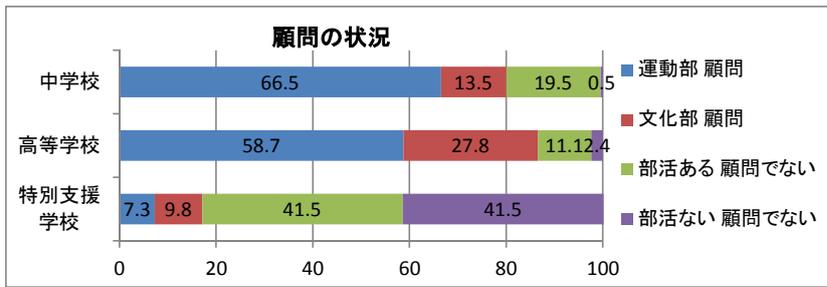
⑬顧問の状況

小学校の方は⑳へお進みください。中学校の方は⑬～⑯を、高等学校、特別支援学校の方は⑬、⑭、⑰～⑱をお答えください。
⑬ 部活動の顧問についておたずねします。次の中から1つ選んでください。(兼務している場合は主たる顧問をお答えください。)

部活の顧問については、中学校・高等学校では、80%以上が顧問をしている。
また体育部顧問で部活動に対する負担感を感じていると回答した者は100人(50%)、文化部では14人(21%)あった。

(回答件数:件)

運動部の顧問をしている	文化部の顧問をしている	部活動はあるが顧問でない	部活動がなく顧問でない
200	66	68	21



(回答人数)	運動部顧問	文化部顧問	部活ある顧問でない	部活なく顧問でない
	中学校	123	26	37
高等学校	74	36	14	3
特別支援学校	3	4	17	17
	200	66	68	21

顧問をしていて負担感を感じている内容

顧問をしていて負担感を感じている内容	負担感の内容	件数	負担感の内容	件数
運動部の顧問をしている	部活動の活動計画の作成	8	部活動の技術的な指導、各種大会(運動部・文化部)への引率等	92
文化部の顧問をしている		0		14

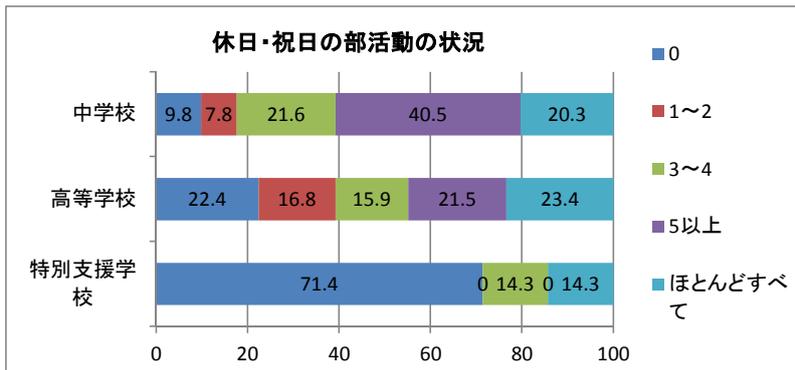
⑭ 休日・祝日の部活動の状況

⑭ ⑬で、1または2と答えた方におたずねします。休日・祝日の部活動の月平均回数を、次の中から1つ選んでください。

休日・祝日の部活については、高等学校で23.4%、中学校で20.3%が「ほとんどすべて」と答え、「5日以上」でも高等学校で21.5%、中学校で40.5%と答えている。

0日	1～2日	3～4日	5日以上	(ほとんど)すべて
46	30	51	85	57

(回答件数: 件)



(回答件数: 件)	中学校	高等学校	特別支援学校	計
0日	15	25	6	46
1～2日	12	18	0	30
3～4日	33	17	1	51
5日以上	62	23	0	85
(ほとんど)すべて	31	25	1	57

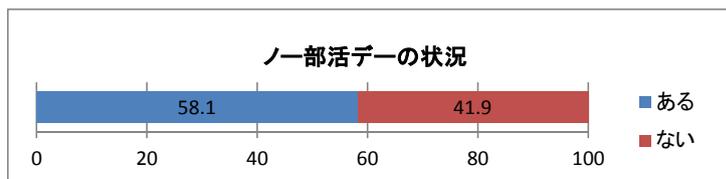
⑮ 中学校でのノー部活デーの状況

中学校の方に、あなたの学校の部活動の状況についておたずねします。

⑮ あなたの学校には、月曜日から金曜日にノー部活デーの設定がありますか。ある場合は、休む回数をお答えください。

ノー部活デーの状況は、41.9%がないと答え、ある場合でも1日だけとなっている。

(回答件数: 件)			(回答件数: 件)							
ある (回/週: 平均回答)	ない		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	計
104	75		104	0	0	0	0	0	0	104



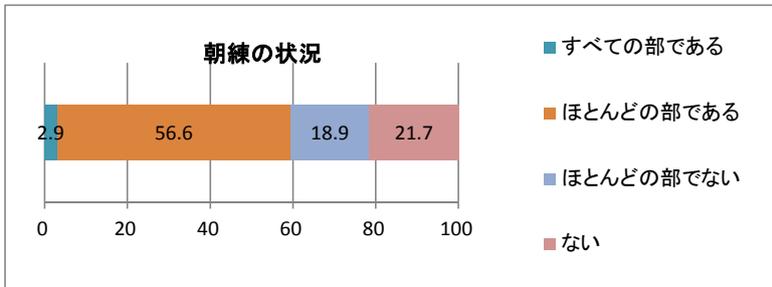
⑩中学校で部活動の朝練の状況

⑩ あなたの学校には、部活動の朝練がありますか。次の中から1つ選んでください。

朝練では、2.9%が「すべての部である」と答え、56.6%が「ほとんどの部である」と答えている。「ない」と答えたのは、21.7%となっている。

(回答件数:件)

すべての部である	ほとんどの部である	ほとんどの部でない	ない
5	99	33	38



⑪高等学校・特別支援学校での部活動における顧問の状況

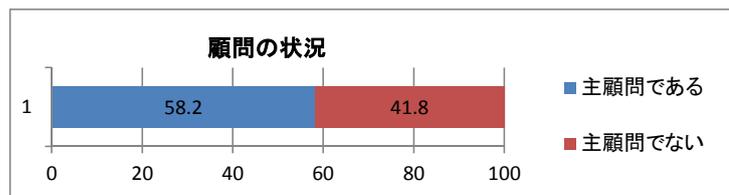
高等学校と特別支援学校の方で、部活動の顧問をしておられる方におたずねします。

⑪ あなたは主顧問ですか、それとも副顧問ですか。

高等学校における主顧問、副顧問の割合は、6:4で主顧問が上回っている。

(回答件数:件)

	主顧問である	主顧問でない
	71	51
内 高等学校	70	39
内 特別支援校	1	12



⑫高等学校・特別支援学校での部活動をしない日の状況

⑫ あなたが顧問をしている部活動は、月曜日から金曜日に活動を休む日がありますか。ある場合は、休む回数をお答えください。

高等学校・特別支援校で月曜日から金曜日に活動を休む日の状況は、「ない」と答えた割合が33.9%で、あると答えた割合は、66.1%であった。

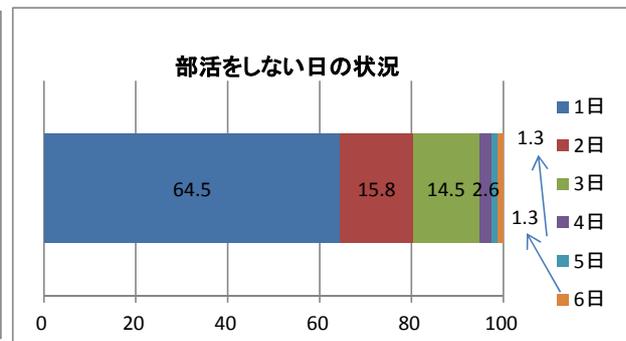
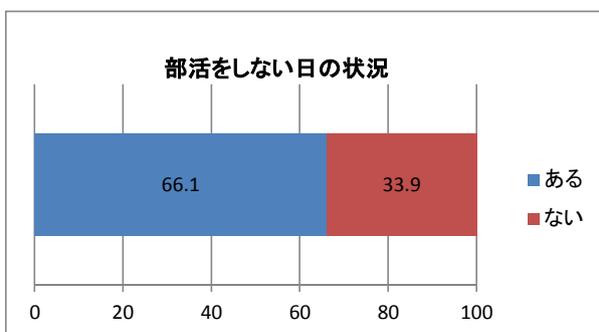
(回答件数:件)

ある (回/週:平均回答)	ない
78	40

(回答件数:件)

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	計
49	12	11	2	1	1	0	76

区分	ある	ない
内 高等学校	72	39
内 特別支援学校	6	12



主顧問・副顧問別割合

(回答件数:%)

	ある	ない
主顧問	68.6	31.4
副顧問	62.5	37.5

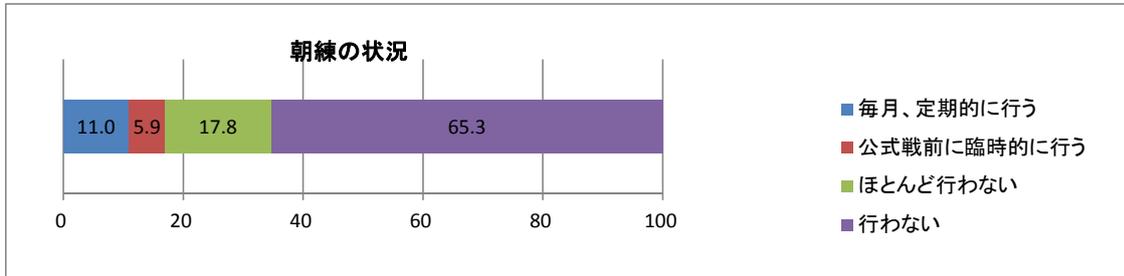
⑱ 高等学校・特別支援学校で部活動の朝練の状況

⑯ あなたの担当する部活動は、朝練がありますか。次の中から1つ選んでください。

朝練の状況については、高校では、「毎月定期的に行っている」と答えた割合は、11%となっている。

(回答件数:件)

毎月、定期的に行う	公式戦前に臨時的に行う	ほとんど行わない	行わない
13	7	21	77



主顧問・副顧問別割合

(回答件数:%)

	毎月、定期的に行う	公式戦前に臨時的に行う	ほとんど行わない	行わない
主顧問	11.1	4.2	15.3	69.4
副顧問	10.9	8.7	21.7	58.7

部活動についての意見

- ・ 毎日こつこつと取り組ませ努力をさせるためには、練習試合も必要であり時間を多く拘束される。
- ・ 一生懸命取り組む生徒を応援したい気持ちと、土、日の休みがなくて本当につらい気持ちがある。
- ・ 保護者や生徒の求める指導のレベルが高くなればなるほど負担が大きくなってしまふ。
- ・ 部活指導は負担も大きく他の教育業務に与える影響は大きいので、切り離して業務に当たるべき。
- ・ びわこ国体に向けた強化と学校内の業務は切り離してほしい。
- ・ 教育文化の一つとして部活をとらえるなら、賃金、指導体制などすべてにおいて国として体制を考えてもらいたい。
- ・ 生徒、保護者、顧問に様々な考え方もあるので、方針をまとめるのは無理だと思う。

滋賀県では、様々な通知や取り組みを通して、超過勤務の縮減や労働安全衛生について努力がなされていますが、次のことについてはどの程度知っていますか。選択肢から1つ選んでください。

⑳ 「超過勤務の縮減について(通知)」についてどの程度知っているか。

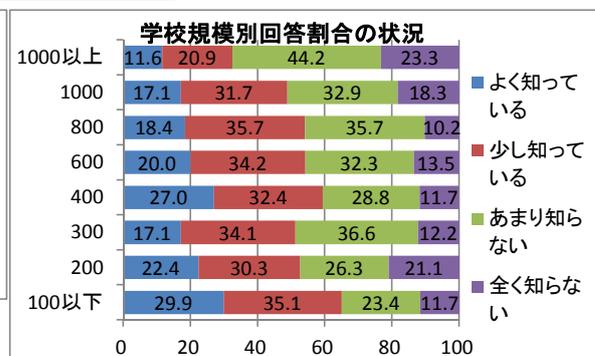
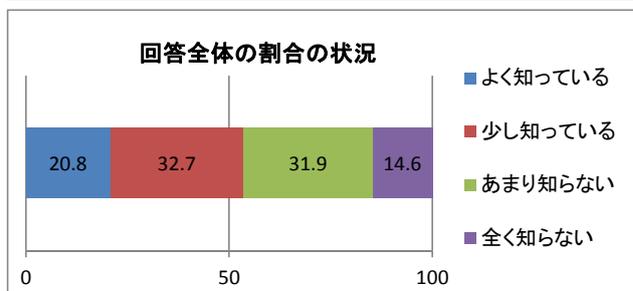
㉑ 毎年4月に県教委教育長名で出される「超過勤務の縮減について(通知)」

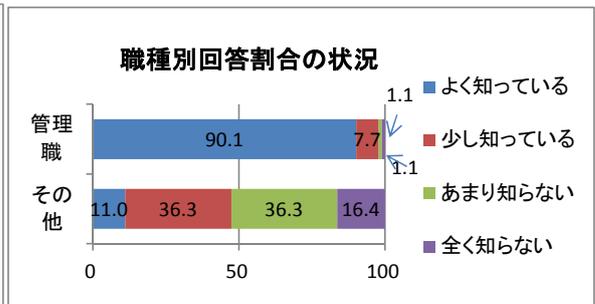
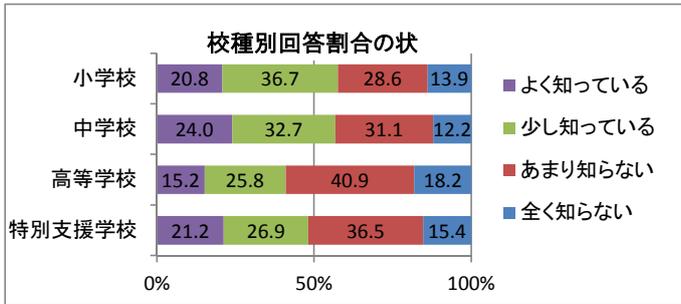
通知について「よく知っている」もしくは「少し知っている」と答えた者は53.5%で、そのうち管理職以外については52.7%が「あまり知らない」、「全く知らない」状況である。

校種別、学校規模別では、割合に特色は特にみられない。

(回答件数:件)

よく知っている	少し知っている	あまり知らない	全く知らない
152	239	233	107





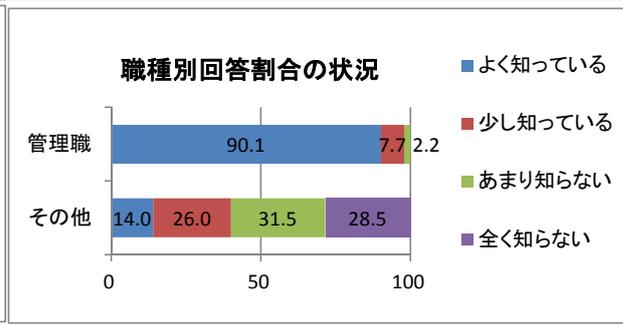
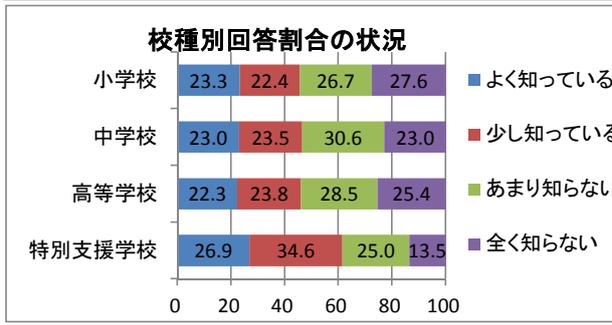
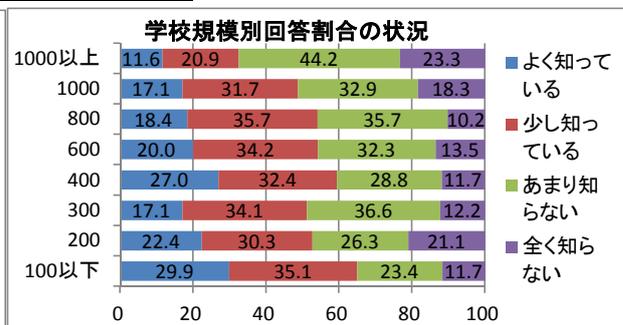
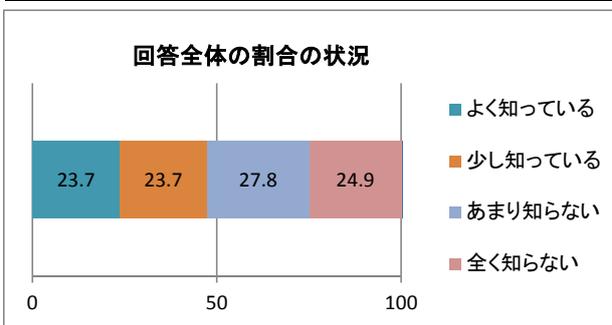
㉑ 勤務時間の割り振り変更についてどの程度知っているか。

「公務の運営上の事情により特別の形態によって勤務する必要がある職員については、週休日および勤務時間の割り振りを別に定めることができること」となっています。

勤務時間の割り振り変更についても前記問い㉑とほぼ同様の傾向がみられる。

(回答件数:件)

よく知っている	少し知っている	あまり知らない	全く知らない
172	172	202	181



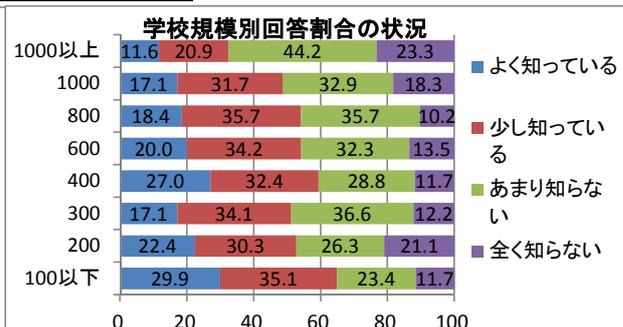
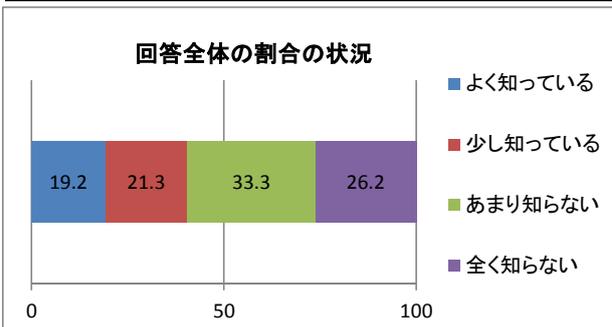
㉒ 安全衛生推進体制についてどの程度知っているか。

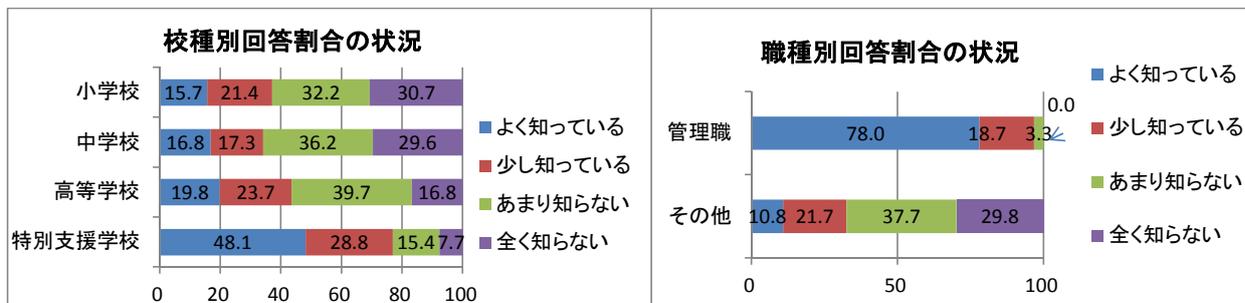
「常時50人以上の労働者を使用する事業場では衛生委員会の設置、衛生管理者の選任が義務付けられ、また常時10人以上49人以下の事業場では衛生推進者の選任が必要であり、環境衛生や労働者の勤務実態を点検して労働者の健康管理をおこなうことを目的とする」となっています。

安全衛生推進体制についても前記問いとほぼ同様の傾向がみられる。
また、校種別で見ると支援学校や高校の「よく知っている」、「少し知っている」の割合は前記問いよりも高くなっている。

(回答件数:件)

よく知っている	少し知っている	あまり知らない	全く知らない
140	155	243	191





㉓ 今回、当互助会が組織することになった「超過勤務縮減プロジェクト」についてどの程度知っているか。

(回答件数:件)

よく知っている	少し知っている	あまり知らない	全く知らない
18	87	323	303

超過勤務縮減・労働安全衛生の取り組みについての意見

- ・ 超勤を減らす努力はするが、意識して早く学校を出てもやらなければならない仕事量は変わらないので持ち帰って仕事をしているのが現状。教師のかかえる仕事が多すぎる。
- ・ 学校教育で何とかしようと思えば対応せざるを得ない分野は増えてきている。「何でも学校で」という流れの中では何も変わらない。
- ・ 超過勤務縮減のためには、学校組織の根本的な見直しがあると思う。職員会議等、もっとICTを活用して短く的確な会議の進め方を浸透させるべきだと思う。
- ・ 労働安全衛生の取組は管理職からの働きかけが全くないので、みんなの意識が高まらない。

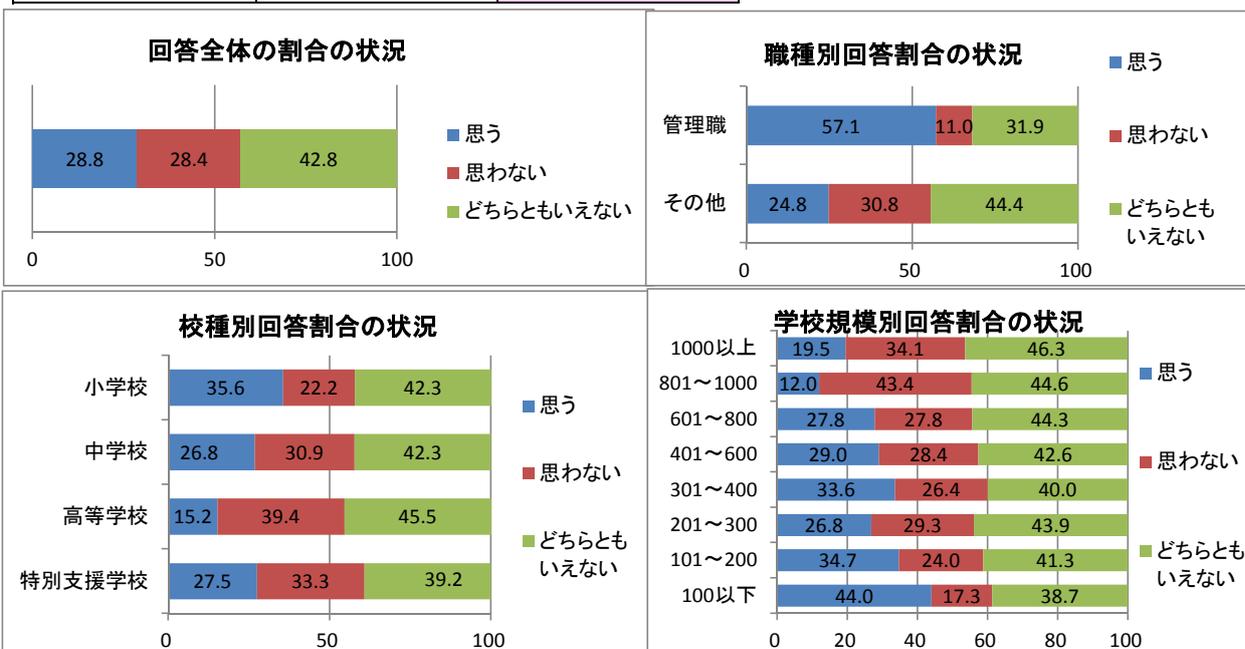
㉔ 業務担当配分の状況

㉔ あなたの学校では、校内での業務配分は、調整されていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

業務の担当配分については、約3割が調整されていると答えていて、約3割がされていないとなっている。調整されていると答えた中では、管理職の割合が比較的高い割合を占めている。
校種別では、中学校、小学校ほど調整されていると思う割合が高く、学校規模別では小規模校ほど高い割合を示している。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
209	206	310



㉕ 職場環境(コミュニケーション)の状況

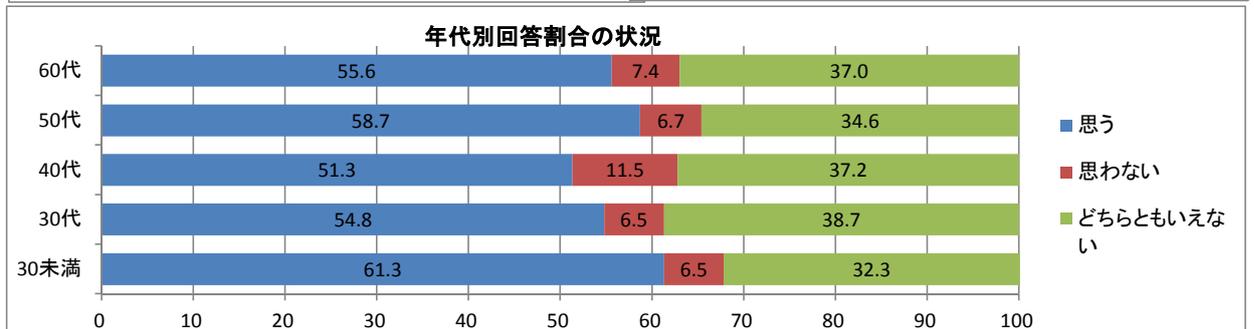
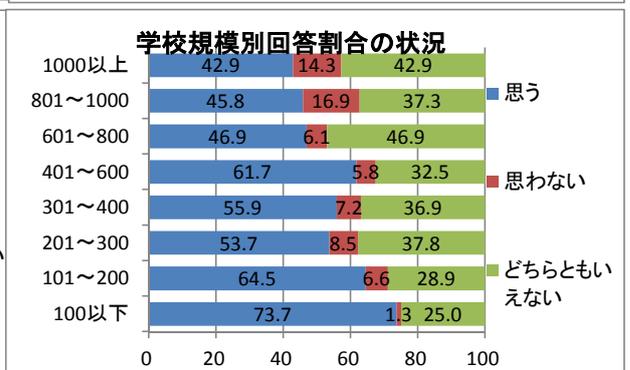
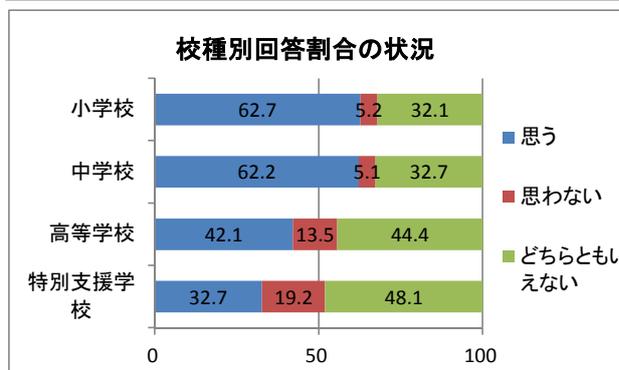
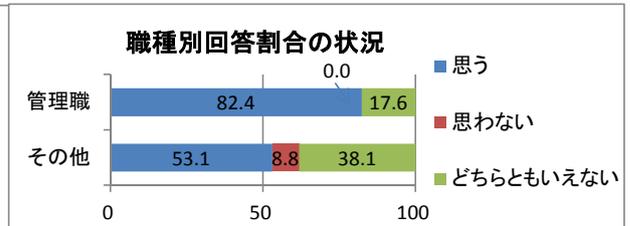
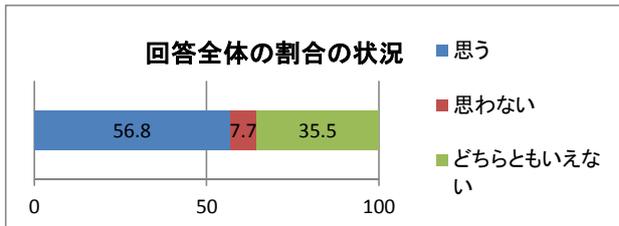
㉕ あなたの学校では、職員のコミュニケーションは取れていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

職場のコミュニケーションについては、約56.8%近くが「取れている」と答えていて、そのうち管理職の回答が82.4%で、中学校、小学校へいくほど割合が高く、学校規模では、小規模校ほど顕著に高くなっている。

年代別では、特出する差異はみられない。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
414	56	259



㉖ 職場環境(チームワーク)の状況

(㉕で、1と回答した方におたずねします。)

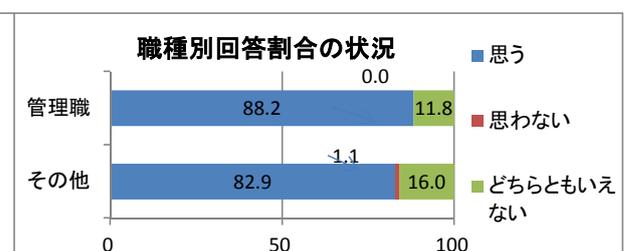
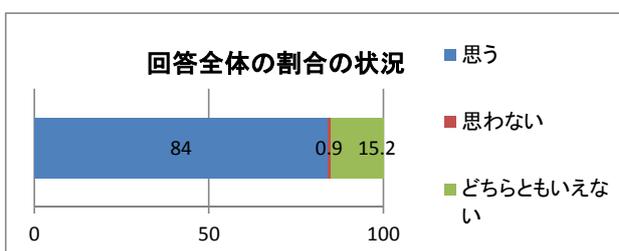
㉖ あなたの学校では、校内でのチームワークは取れていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

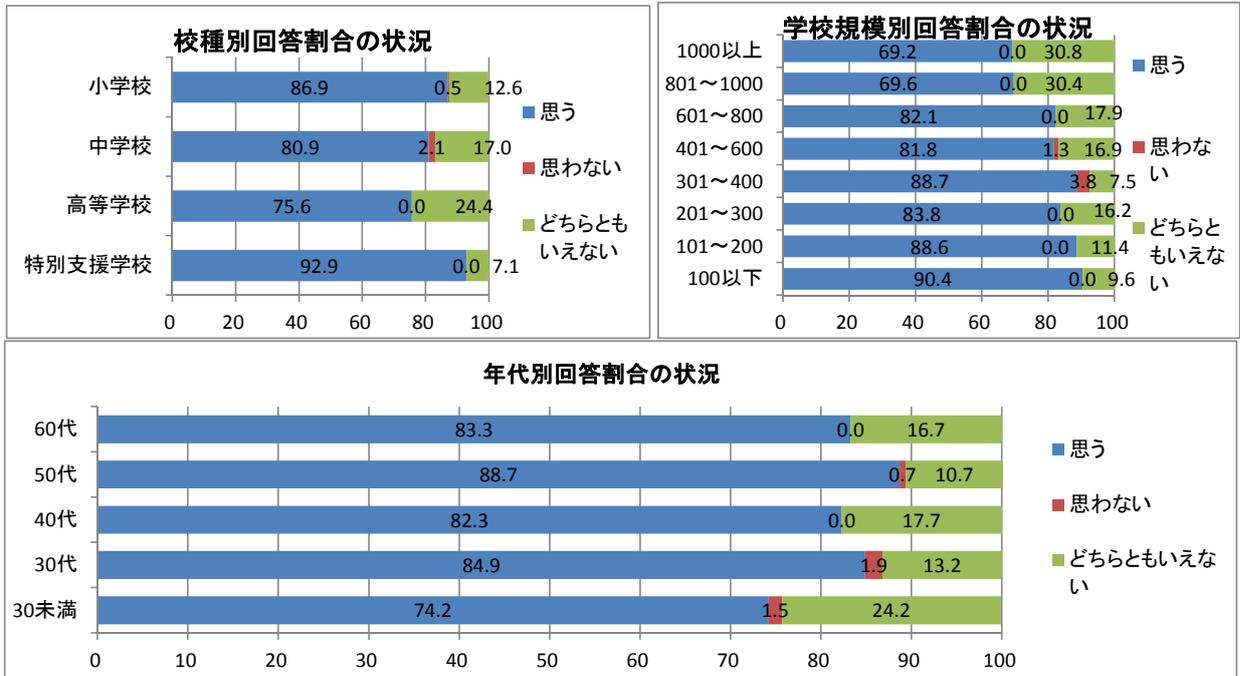
職場でのコミュニケーションが取れていると答えた内、チームワークは取れているかの問いに対しては、84%が「取れている」と答えているものの、0.9%が「取れていない」、15.2%が「どちらともいえない」と答えている。

この回答に対しては、前問同様、管理職、中学校・小学校、小規模校ほど「取れている」の割合が高くなっていて、特別支援学校においても「取れている」の割合は高い。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
288	3	52





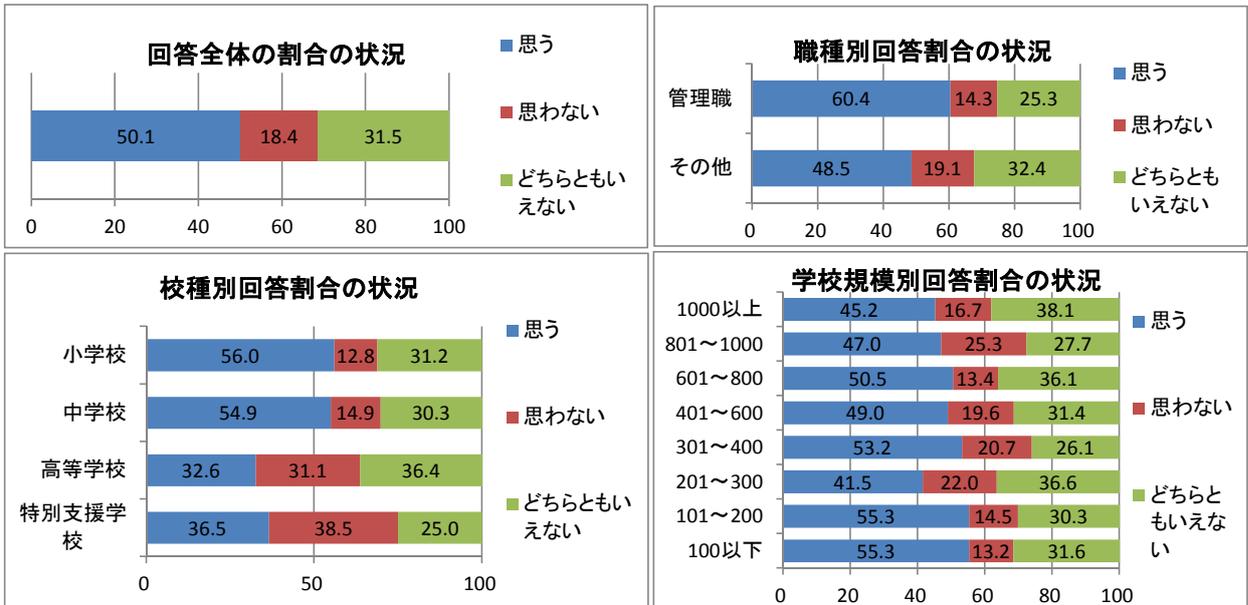
⑦ 校務の効率化(ICTの活用の合理化など)の状況

⑦ あなたの学校では、パソコンやICTなど校務(事務含む。)への活用が進んでいると思いますか。次の中から1つ選んでください。

校務の効率化では、回答全体で5割が「パソコンやICTの活用が進んでいる」と答えているが、特別支援学校・高等学校へいくほどその割合は低下しており、学校規模では、大規模ほど進んでいるとは思っていない。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
364	134	229



⑳ 校務の効率化(会議の合理化など)の状況

㉔ あなたの学校では、会議の効率化や情報の共有など業務の合理化に向けた取り組みがなされていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

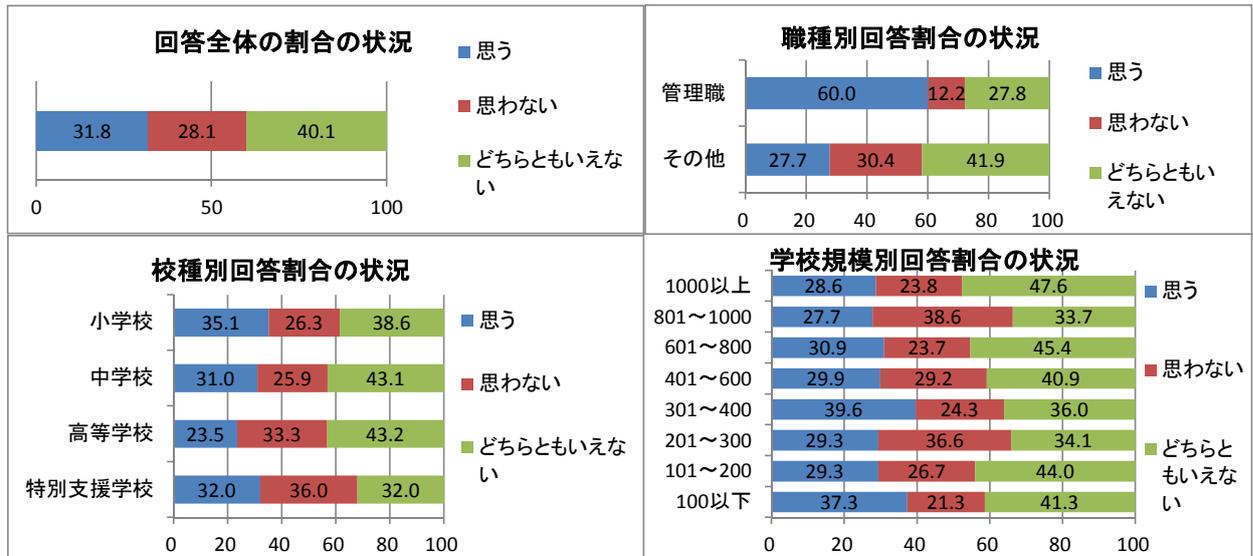
会議・情報の共有に関する合理化については、管理職では60%が「そう思う」と答えているが、全体では、28.1%が「思わない」40.1%「どちらともいえない」と答えている。

校種別では中学校・小学校において、学校規模別では小規模学校ほど「そう思う」と答えている割合が比較的高くなっている。

特に高等学校・特別支援学校、800人から1,000人および201人から300人の学校規模では、「思わない」と答えた回答が「思う」を上回っている。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
231	204	291



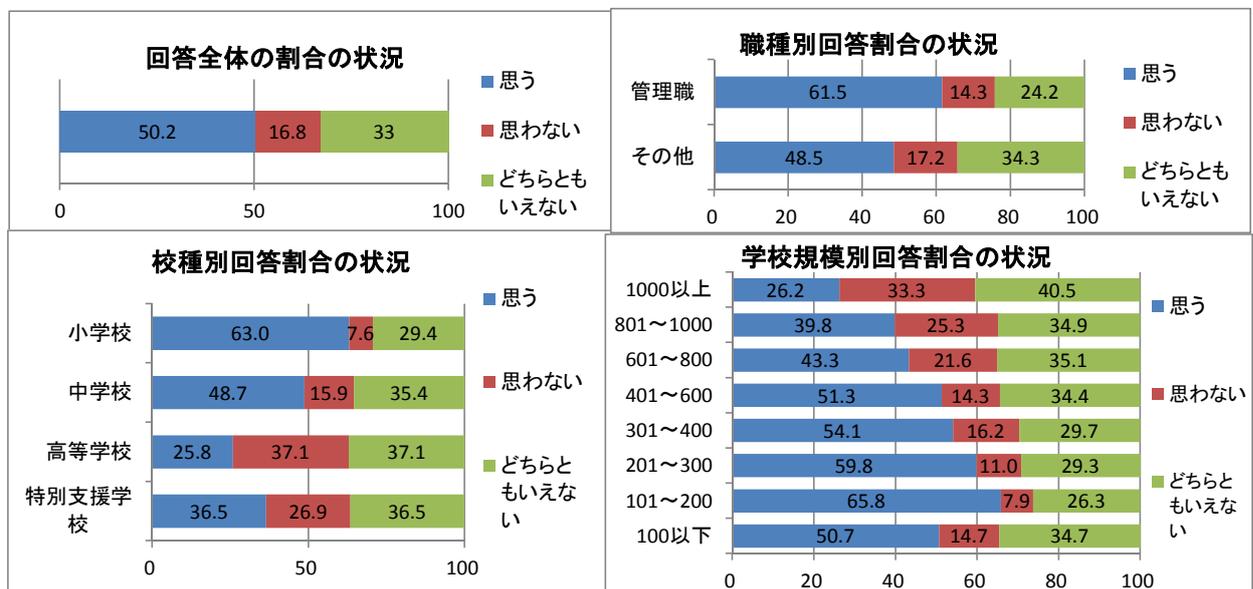
㉕ 地域との協働やボランティアの活用の状況

㉕ あなたの学校では、地域との協働やボランティアの活用を必要に応じて積極的に行っていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

回答全体では、ボランティア等の活用を積極的に行っていると「思う」回答が50.2%となっている。校種・学校規模では、中学校さらには小学校、また小規模校ほどその割合は高くなっている。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
365	122	240



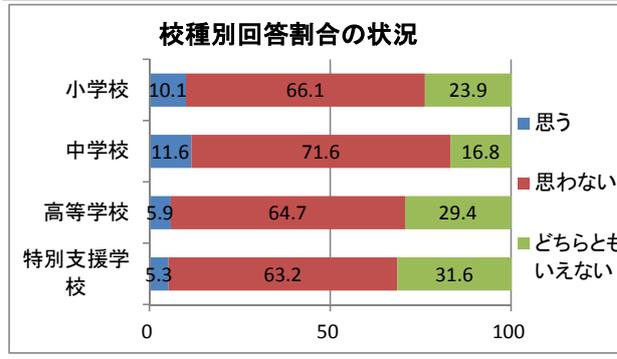
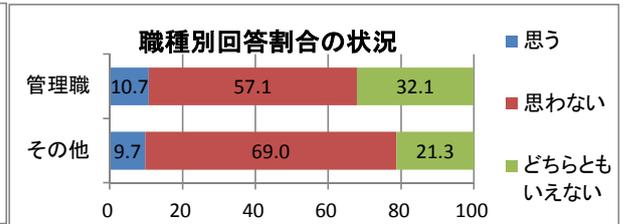
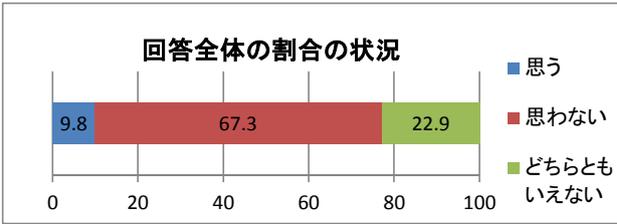
⑩ 地域との協働やボランティアの活用による、超過勤務の縮減状況

(29で、1と答えた方におたずねします。)
 ⑩ あなたの学校では、地域との協働やボランティアの活用によって、超過勤務の縮減につながっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

前問で、ボランティア等の活用で積極的に行っていると答えた者のボランティア活用による「超過勤務縮減効果」については、校種・学校規模にかかわらず60%～70%が、「効果があるとは思わない」と答えている。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
36	247	84



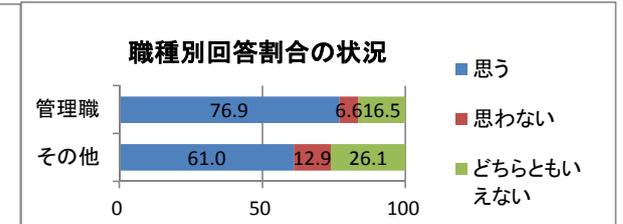
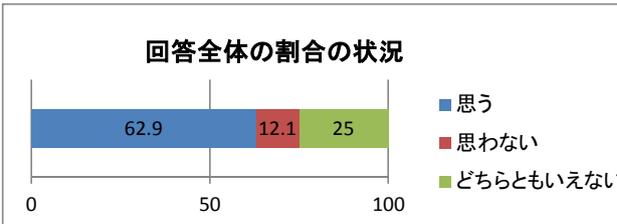
⑪ 専門家(スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)や弁護士など)による支援状況

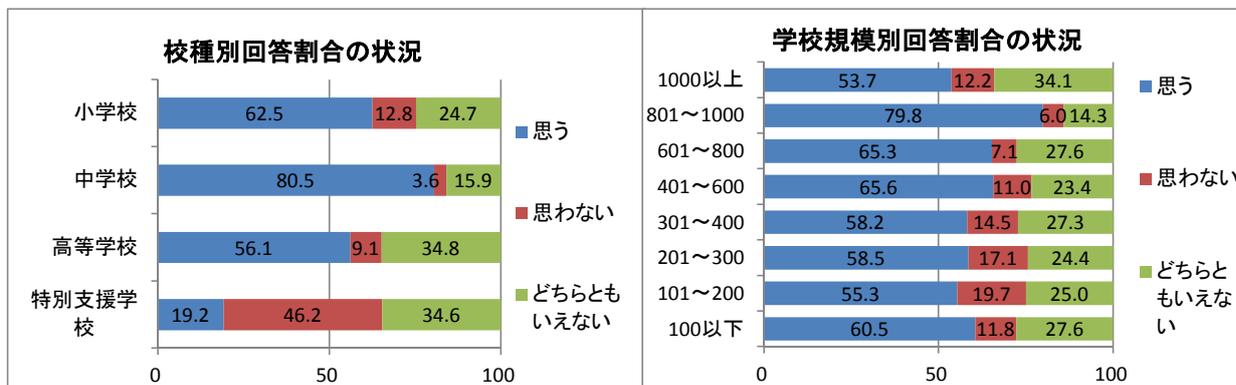
⑪ あなたの学校では、生徒指導や教育相談などで、必要に応じて専門家の活用を効果的に行っていると思いますか。次の中から1つ選んでください。
 SC: 心理の専門的知識・技術を活用して児童生徒の悩みや不安を受け止め相談にあたる心理の専門家。小・中・高校に配置・派遣。
 SSW: 社会福祉の専門的知識・技術を活用して、学校、家庭、地域の関係機関をつなぎ問題解決に向け支援する福祉の専門家。市、町に配置。*必要に応じて、SCは特別支援学校に、SSWは高等学校、特別支援学校に派遣される。

専門家の支援については、62.9%が効果的に「思っている」と答えていて、中学校でのその割合は、80.5%に達している。
 学校規模では、800人～1,000人規模で79.8%の回答があり、管理職の意識も76.9%その他の職員の意識でも61%が効果があると「思っている」。

(回答件数:件)

思う	思わない	どちらともいえない
458	88	182





業務改善についての意見

- ・地域の協働、ボランティアの活用で、打合せや日程調整等が勤務時間外になり逆に超過勤務になっていると感じる。
- ・校内で業務改善できる取組はまだありますが、それを話し合う場も、提案する場(立場)も時間もありません。こういうことはマネジメントと同じで管理職のみが考えることだと思われるようです。職場みんなで考えたらよいのと思います。
- ・パソコンが各自に配置され、校務支援のデータ共有化を図っていくことは大変効率的に業務を進めることができる。しかし報告、アンケート、業務連絡などが多く、楽になっていない現実もある。
- ・学校の教師としての業務に優先順位をつけて専念できるようにしてほしい。何でもかんでもやらせず、教科指導、学習指導にしっかり時間を使えるようにして他のことはやめるべき。他の業種の専門家にしてもらってしかるべき。
- ・子のトラブル、保護者の不安、地域の問題など教員が対応を求められることが多く、しかも長期間を要します。専門機関の活用も進みつつありますが連絡調整や会議の増加で効果も期待できる反面十分に生かし切れていません。

別表 「2015 学校現場における業務改善のためのガイドライン」(文部科学省)より

区分	番号	業務内容
児童・生徒の指導に関する業務	1	学校教育目標の策定、教育課程の編成
	2	時間割の作成、教室等使用割当ての作成、授業時数の管理
	3	教科書の給与(給与名簿・需要数報告・転入時の教科書配布)
	4	副教材の採択(選定作業、採択委員会)
	5	学校行事の年間計画の策定、各種行事の企画
	6	学校行事の事前準備、当日の運営、後片付け
	7	テスト問題の作成、採点
	8	成績一覧表・通知表の作成、指導要録の作成
	9	週案・指導案の作成
	10	教材研究、教材作成、授業(実験・学習)の準備
	11	研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成
	12	新たな教員免許状を取得するための免許法認定講習の受講
	13	免許更新のための免許法更新講習の受講
	14	職場体験、校外学習等の事前打合せ
	15	学年・学級通信の作成、掲示物等の作成・掲示
	16	宿題、提出物の点検
	17	朝学習、朝読書の指導、放課後学習の指導
	18	出欠連絡や保護者からの電話連絡への対応、保護者への連絡(緊急時、周知)
	19	清掃指導、教室等の環境整備
	20	登校・下校指導、通学路の点検
	21	危機管理(不審者、学校侵入への対応)
	22	日々の成績処理(テスト等のデータ入力・統計・評定)
	23	学期末の成績・統計・評定処理
	24	部活動の活動計画の作成
	25	部活動の技術的な指導、各種大会(運動部・文化部)への引率等
	26	関係機関への申請・登録、大会申込み
	27	生徒指導、進路・就職指導等に関する関係機関との連携
	28	児童・生徒の問題行動への対応(時間外での家庭訪問、指導を含む)
	29	児童・生徒の指導に関する照会・回答
	30	特別な支援が必要となる児童生徒への対応
	31	児童・生徒、保護者との教育相談
	32	進路指導に関する業務(進路先データの収集、連絡調整、進路説明会等への参加)
	33	進学・入試に関する業務(調査書・受験書類の作成・点検、合否確認)
	34	進路相談、保護者進路説明会の開催
	35	学校安全計画、学校労働安全衛生計画、危機管理・防災マニュアル等の作成
	36	学校保健計画の作成、健康診断計画の作成
	37	健康診断に関する業務(検診の補助、健康診断票への記述)
	38	給食センターや委託業者等との連絡調整(食材の発注、食数の報告、未納者報告など)
	39	給食の衛生管理に関する業務(検食の実施、O-157等の給食事故への対応)
	40	給食指導・安全管理(アレルギー児童生徒への対応)
	41	給食費の集金、支払、未納者への対応
学校の運営に関する業務	42	学校経営方針の策定、運営施策の企画
	43	校務分掌の作成、各種委員会の企画運営
	44	学校評価の評価項目の設定、報告書の作成
	45	児童・生徒、保護者アンケートの実施・集計
	46	朝の打合せ、学年会議、職員会議、各種委員会等の会議の実施
	47	会議のための事前準備(書類の作成・開催の連絡)、事後処理(議事録、まとめ)
	48	PTA活動に関する業務(活動への参加、会計・事務処理)
	49	学校運営協議会・学校評議員会・学校関係者評価に関する業務
	50	地域との連携に関する業務(地域行事への参加、児童生徒の引率)
	51	地域の学校支援の取組への対応(企画・連絡調整・事後対応)
	52	保護者・地域からの要望・苦情等への対応
	53	学校からの情報発信(学校だより、学校要覧の作成・編集)
	54	学校からの情報発信(学校ホームページの更新、掲載内容の企画)
	55	文書の收受・発出、文書処理簿等の作成
	56	文書の整理・保存、廃棄
	57	国や教育委員会からの調査やアンケートへの対応
	58	児童生徒の在籍管理(名簿の作成、出席簿の記入、月末統計)
59	月末の統計処理(出席簿)や教育委員会への報告文書(いじめ・不登校・月例報告等)の作成	
60	校務支援システムの保守・管理	
61	出勤簿等の服務関係帳簿の整理、勤務時間の割り振りなどの勤怠管理	
62	生活保護・就学援助の申請、援助費の支出(特別支援教育就学奨励費を含む)	
63	学校予算の予算編成・執行管理	
64	学校予算の購入・支出関係書類の処理(支出命令等のデータ処理)	
65	学校徴収金に関する業務(通知・集金・支払・会計処理)	
66	学校徴収金に関する業務(未納者への対応)	
67	備品・施設の点検・整備、修繕	
68	学校・敷地内の環境整備(清掃・除草など)	
69	備品の購入、施設の整備計画の策定	
70	通勤・扶養・住居手当などの申請、旅行命令・旅費の申請	
71	諸手当の認定、給与の支給事務、旅費の管理、請求・支給	
その他	72	献立作成
	73	
	74	

Ⅲ 教職員超過勤務縮減プロジェクト協議会の経過

第1回協議会（平成28年5月31日）

場所 合同庁舎6階 6-B会議室

内容 委員紹介

要綱説明

趣旨説明

文科省ガイドライン事例等紹介

現状の意見交換

第2回協議会（平成28年8月25日）

場所 合同庁舎7階 7-A会議室

内容 アンケート実施について

改善策について

第3回協議会（平成28年12月26日）

場所 県庁北新館5階 5-C会議室

内容 アンケート結果について

超過勤務縮減の改善策について

第4回協議会（平成29年2月13日）

場所 県庁北新館5階 5-C会議室

内容 改善のための具体策について

中間報告について

今後の取組について

参考資料

○ 関係する通知等一覧

滋賀県教育委員会

- ・「超過勤務の縮減について」 (2016.4.27)

文部科学省

- ・学校現場における業務の適正化に向けて

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/uneishien/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/06/13/1372315_03_1.pdf

- ・「学校現場における業務改善のためのガイドライン」 (2015.7.27)

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2015/08/31/1297093_4.pdf

- ・「学校における労働安全衛生管理体制の整備のために (改訂版)

～教職員が教育活動に専念できる適切な職場に向けて～ (2015.7)

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/__icsFiles/afieldfile/2012/08/23/1324759_1.pdf

- ・「労働安全衛生法等の一部を改正する法律等の施行について」 (2006.4.3)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/042/siryo/attach/1247469.htm

発行 2017年4月

滋賀県教職員超過勤務縮減プロジェクト協議会
(一般財団法人滋賀県教職員互助会内)

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL 077-528-4557 FAX 077-528-4952

<http://www.shigakyogo.or.jp> e-mail: info@shigakyogo.or.jp